

事業名

クラフトミックス京都ー伝統のもったいない素材にアイデアをプラスしてみよう

実施団体 **be 京都エデュケーションプロジェクト**

■ 事業報告

かつて和装で重宝されたものの現在は製造業者も減少している伝統品（金糸やくみひもなど）を使った新たなアイデアを募集する事業。

気軽に伝統を手に取り触れる、考える機会を創出する。現代のライフスタイルに根差した方法を考えるという喜びを通じ伝統と文化の活性及び、多世代交流につなげることを目的に開催。使用するのは、**上質だけど商品にならない端切れや端材＝伝統のもったいない部分**（例えば能装束の織りきれなかった糸など）。上記目的を達成するため、「学ぶ」「つくる」「みせる」をテーマとした以下を実施しました。



・「学ぶ」：素材を知るため従事者による説明や体験を通じた交流。

普段の着物を楽しむ！アイデア交流会（10月9日（日）10:30～12:00 参加人数 10名 参加費 300円）

要望が多かった着物や帯の活用を实践。地域ブライダル衣装屋さんからの提供に加え、区民新聞をご覧になられ、着物を提供して下さった一般の方が7名もおられました。そのまま着て活用することを前提に、普段の着物を楽しむコーディネート術のアドバイスと、シミやホツレなどがあるものはその他のアイデアを出し合い、参加者で持ち寄った着物をワンピースなどに活用するアイデア交流を行い、活発な会となりました。（カミング取材あり）

暮らしのテーブルコーディネートを楽しむ～京焼清水焼編～（12/17（土）14:00～15:30 参加人数 15名 参加費 800円）

清水焼の従事者に話を聞き、テーブルコーディネーターのアドバイスのもと、暮らしの中に活かすアイデアを学びました。良いものだけど割れたりかけた焼き物は地域金継ぎ教室主催者の参加もあり、金継作品として生まれ変わりました。

・「つくる」材料を加工するための勉強会の開催

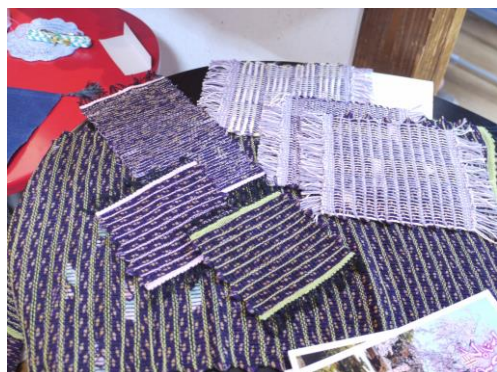
生地を使ってポチ袋をつくろう 12/10（土）11時～13時 参加人数 10名 参加費 500円

着物生地など小さなハギレでも活用できるようにお正月に向けてポチ袋を制作。ご家族連れの参加も多く、和んだ開催となりました。

・「みせる」成果発表会：アイデアがプラスされた成果品を発表。



左)清水焼のテーブルコーディネート 中)着物のアイデア交流 右)ハギレでポチ袋をつくらう



▲金糸を透明マニキュアにリボンになりました。

◀マフラーに糸箔を編む。

▲糸単体だと細くて切れてしまう西陣織の糸箔は着物をさき織りにし、一緒に織るという技法でみごとなコースターに生まれ変わりました。提供したご本人は活用方法が見当たらない西陣織の糸(もったいない部分)に別の方のアイデアが加わり形になり、両者の交流ができました。

【集まった材料と形になったアイデアの一例】

北山杉の端材→色鮮やかなトルペイント ▶
着物→ぼうし、バック、手まり、コサージュ、カーテン、ワンピース、ポチ袋
帯→テーブルセンター、コースター、
西陣織の糸→タッセル、くみひも、ブローチなどアクセサリ、さき織り
扇子の骨→ブックマーカー
くみひも→髪飾り 陶器→金継 など



◀もともとなった材料

▶ハギレのぼち袋



私たちは京町家を活動拠点に、地域の皆さまに支えられ文化芸術に関連する様々な企画を立てております。

自分では活用しきれない、あるいは不要と思って提供してくれた着物や糸などの素材に、新しい息吹が加わり別のものに生まれかわる。この企画は単純なりサイクルという領域を超え、学びに加え、素材提供者とその想いをくみとった制作者の素敵な出会い場となり、多くの笑顔と感動を生んだ交流の取組となりました。

新しいもので造ったり買ったりする方が安く済むケースが多々ありますが、クラフトミックス京都を通じ思いが繋がった循環型の取り組みになったと思います。ありがとうございました。